

昭和36年度(昭和36年3月1日から昭和37年2月28日まで)事業報告および会計報告

事 業 報 告

I. 会 議

本会運営上の会議を次の通り開催した。

1. 総 会

第 46 回通常総会 36年4月3日開催

議 事

- (1) 理事, 監事および評議員選挙の件 (別掲の通り当選者決定)
- (2) 昭和35年度事業報告, 収支決算並びに財産目録の件 (承認可決)
- (3) 昭和36年度事業計画並びに収支予算の件 (承認可決)

臨時総会 36年10月17日開催

議 事

定款一部変更の件 (承認可決)

2. 評議員会

昭和36年度第1回評議員会 36年8月1日開催

議事 定款一部変更の件 (承認可決)

昭和36年度第2回評議員会

議事 理事2名補欠選任の件 (金森九郎君, 松本豊君選任)

昭和36年度第3回評議員会 37年2月24日開催

- 議事 (1) 次期理事, 監事, 評議員候補者推薦の件 (候補者推薦決定)
- (2) 昭和36年度事業報告, 収支決算並びに財産目録の件 (承認可決)
- (3) 昭和37年度事業計画並びに収支予算の件 (承認可決)

3. 理事会

36年3月17日, 4月3日, 4月18日, 5月18日, 6月19日, 7月18日, 9月18日, 10月25日, 11月17日, 12月14日, 37年1月18日, 2月24日の12回開催し, 毎月の庶務並びに会計事項, 会員の入退会その他一般会務を協議決定した。

4. 編集委員会

36年3月22日, 4月25日, 5月23日, 6月27日, 28日, 7月25日, 8月29日, 9月26日, 10月31日, 11月25日, 12月23日, 37年1月30日, 2月17日の12回開催し, 会誌の編集方針, 企画, 掲載論文の選定, 技術資料の蒐集その他会誌編集に関する一切の事項を協議処理した。

5. 企画委員会

36年3月3日, 3月29日, 5月9日, 6月14日, 7月14日, 9月12日, 10月10日, 11月7日, 12月12日, 37年1月16日, 2月13日の11回開催し, 事業運営上の諸企画, 特に本年度においては協会強化策につき審議立案した。

6. 支部長会議

36年4月4日開催, 本部の事業計画の説明並びに各支部の事業状況の報告があり, 協会発展に関する件, 本部支部間連絡に関する, 事項等につき協議した。

II. 会 員

本年度において次の通り会員の異動があつた。

異動	会員別	名誉 会員	賛助 会員	維持会員		正 会 員	学 生 会 員	外 国 会 員	合 計	会 組 織 団 体 数
				員 数	口 数					
昭和36年 3月1日 現 在		19	32	204	922	6,415	411	41	7,122	82
入 会				+ 10	+ 10	+ 469	+ 220	+ 2	+ 701	
退 会				- 4	- 13	- 205	- 18	- 15	- 242	
死 去		- 2				- 11			- 13	
転 格		+ 2	- 1			+ 106	- 107			
昭和37年 2月28日 現 在		19	31	210	919	6,774	506	28	7,568	85

III. 役員および常置委員

本年度において次の通り役員および常置委員の異動があつた。

1. 理 事

36年4月3日開催の第46回通常総会において任期満了(半数)の理事の改選を行い, 次の通り当選, 就任した。(敬称略)

小野田武夫 桂 寛一郎 川崎 勉 佐藤 知雄
俵 信次 俵 隆治 藤本 一郎 松下 幸雄
同日開催の理事会において互選により次の通り当選就任した。

副会長 佐藤 知雄君

副会長 俵 信次君

36年9月1日理事小野田武夫君辞任。

36年9月9日理事川崎勉君辞任。

36年12月1日開催の第2回評議員会において理事2名の補欠選挙を行い, 金森九郎君, 松本豊君当選就任した。

36年12月21日理事金森九郎君辞任。

2. 監 事

36年4月3日開催の第46回通常総会において任期満了(半数)の監事の改選を行い, 次の通り当選就任した。

横山 均次君

3. 支部長

36年5月17日中国四国支部長横山金三郎君任期満了退任, 後任に黒田隆之君当選就任した。

37年1月27日関西支部長沢村宏君任期満了退任, 後任に桑田賢二君当選就任した。

4. 評議員

36年4月3日開催の第46回通常総会において任期満了(半数)の評議員の改選を行い, 次の通り当選就任した。(敬称略)

浅田 讓 足立 彰 伊木 常世 伊藤 正夫
 伊東 寛治 井上 友喜 井村 竹市 入 一二
 石田 稔 上野建二郎 遠藤勝治郎 大河原正太郎
 大谷米太郎 大原 久之 大森 基一 大矢根大器治
 岡田 儀一 岡村 武 金田 義夫 香春三樹次
 嘉村 平八 河上 益夫 菊池 浩介 絹川武良司
 葛 誠四郎 小柴 定雄 小島 義正 幸田 成康
 佐々川 清 斉藤 省三 斉藤 弥平 酒井 佐敏
 作井 誠太 里井孝三郎 里村 伸二 志賀 芳雄
 島村 哲夫 相山 正孝 瀬尾喜代三 多賀谷正義
 滝沢 工 高石 義雄 高瀬 孝夫 谷川 正夫
 富山英太郎 外島 健吉 西山弥太郎 西村 秀雄
 丹羽貴知蔵 錦織 清治 橋口 隆吉 峰谷 茂雄
 浜田 正信 平世 将一 広田 寿一 藤田 俊三
 増本 量 町永 三郎 的場 幸雄 松本兼二郎
 松本 義一 宮下格之助 水島三一郎 村田 巖
 室井嘉治馬 村尾時之助 森崎 晟 森田恵三郎
 森田 志郎 望月 要 安田 勇治 山内 二郎
 山田良之助 山野上重喜

(以上74名改選, 任期2年)

石原 正美 桑田 賢二 芝崎 邦夫

(以上3名補欠, 任期1年)

36年2月10日評議員川手寿夫君死去。
 同 7月27日評議員皆川孝光君死去。
 同 8月26日評議員寒川恒一郎君死去。
 同 10月7日評議員黒田泰造君死去。
 同 12月8日評議員小柴定雄君死去。

5. 常務委員

36年4月20日常務委員を次の通り委嘱した。(敬称略)

伊木 常世 入 一二 遠藤勝治郎 五弓 勇雄
 相山 正孝

6. 編集委員

36年6月30日編集委員上野学君辞任, 後任に中川竜一君を委嘱した。

36年10月28日編集委員野崎善蔵君辞任, 後任に高橋俊雄君を委嘱した。

7. 企画委員

36年9月4日企画委員鶴瀬浩君辞任, 後任に高野広君を委嘱した。

36年10月28日企画委員知崎喬君辞任, 後任に鳥羽亮一君を委嘱した。

IV. 一般事業

本年度における事業の概要は次の通りである。

1. 会誌

「鉄と鋼」第47年第3号から第48年第2号まで12冊(うち第3号および第10号は講演前刷)を発行した。なお臨時増刊として次の3冊を発行会員に配布した。

第47年第8号 鉄鋼技術共同研究会鋼材部会厚板分科会報告書

第47年第13号 鉄鋼技術共同研究会鋼材部会線材分科会報告書

第48年第3号 鉄鋼技術共同研究会鋼材部会中小型分科会報告書

2. 刊行物

Tetsu-to-Hagané Abstracts No.10 (1960年)

Tetsu-to-Hagané Overseas Vol. I No.1, 2, 3

3. 鉄鋼技術講座の編集

「使用者のための鉄鋼技術講座」編集の目的をもつて32年7月に編集委員会を設け, 鋭意編集の事業に当り既に第5巻まで完成発行し, 目下第6巻の刊行を進めている。

第1巻 製鉄製鋼法

第2巻 鋼材製造法

第3巻 鋼材の性質と試験

第4巻 鋼材加工法

第5巻 鋳鉄の性質と加工

第6巻 鉄及び鋼材の規格と解説

4. 鉄鋼便覧の改編

鉄鋼便覧は既に改編4版を重ねたが, 更に新事態に対応するため改編に着手することとなり, 33年7月改編委員会を設置, 刊行の準備を進めたので, 既に完成, 発行の運びとなつた。

5. 工業標準原案の作成

工業技術院より, 工業標準原案作成(3件)の委託を受け, それぞれ委員会を設けて調査研究を進め, 答申案の作成を終つた。

(1) 鋼の脱炭層の深さ測定方法工業標準原案の作成
委員長松下幸雄君ほか19委員

(2) 鋼の火花検査方法工業標準原案の作成
委員長石原善雄君ほか17委員

(3) 鋼の真空型発光分光分析方法工業標準原案の作成
委員長池上卓穂君ほか17委員

6. 原子力研究委員会

原子力工業の発展に対応する鉄鋼生産技術の育成に必要な調査研究を行うことを目的として32年7月に設置された本委員会は, 爾後度々会合を開いて調査研究を行い, またその内に文献専門委員会を設けて関係文献の蒐集頒布に努めている。

7. 鉄鋼技術共同研究会

鉄鋼技術共同研究会(通産省重工業局, 日本鉄鋼連盟および本会の三者共同組織)は製鉄, 製鋼, 鋼材, 特殊鋼, 計測, 熱経済技術, 品質管理, 調査, 新技術開発, 鉄鋼分析の10部会に分れ, また部会中に分科会を設けて研究事項を分担, 引続き活潑な調査研究を行つているが, 本年度においては一層その事業活動を推進した。

8. 講演会, 見学会および座談会

(1) 春季講演大会および見学会

36年4月3日から6日まで3日間早稲田大学において開催, 研究発表講演174, 特別講演5

4月6日日本金属学会と共同で, 12班に分れ, 日本原子力研究所, 東海研究所ほか24カ所の工場, 研究所等の見学を行つた。

(2) 秋季講演大会および見学会

36年10月17日から19日まで3日間秋田大学において開催, 研究発表講演156

11月20日, 21日の両日日本金属学会と共同で5班に分れ秋田地方の工場, 鉱山等の見学を行つた。

(3) 特別講演会

26年4月1日早稲田大学において, 服部賞ほか各賞の受賞記念講演会を開催。

講演 日本鉄鋼業の経営合理化の方向
 渡辺義介賞受賞者 角野 尚徳君
 住友金属工業小倉製鉄所における高炉、平炉
 操業および線材生産技術の改善促進について
 服部賞受賞者 里井孝三郎君
 特殊線材の製造技術の概況について
 香村賞受賞者 菖蒲 正俊君
 鉄鋼製錬反応における動的状態
 俵賞受賞者 森 一美君
 ゲージ鋼について
 渡辺三郎賞受賞者 横山 均次君
 36年10月18日秋田市魁新聞社講堂において公開講演会
 を開催。

講演 科学技術の進歩と人間形成
 東京大学総長 茅 誠司君
 わが国鉄鋼業の展望
 日本鉄鋼協会々長 浅田 長平君
 36年5月19日日本化学会化学図書館において開催。

講演 金属の爆発変形について
 米国シカゴ大学教授 C. S. SMITH 博士
 36年5月24日日本相互ホールにおいて開催。
 講演 熔鋸炉によらざる製鉄法について
 スイス・チューリッヒ大学教授 R. DURRER 博士
 36年6月13日大和証券ホールにおいて開催。
 講演 カルド酸素製鋼法について
 スウェーデン Bo KALLING 博士

(4) その他
 他学協会との共催にて次の通り開催した。
 第11回品質管理大会
 第4回自動制御連合講演会
 塑性加工講演会およびシンポジウム
 第6回金属材料の強度および疲労に関する総合シン
 ポジウム
 第3回原子力研究総合発表会
 第5回材料試験連合講演会

9. 表彰

昭和36年4月3日第46回通常総会において表彰式を行
 い、鉄鋼技術の功労者に下記の賞を贈り表彰した。

服部賞	里井孝三郎君		
香村賞	菖蒲 正俊君		
俵賞	森 一美君		
渡辺三郎賞	横山 均次君		
渡辺義介賞	角野 尚徳君		
渡辺義介記念賞	井上 誠君	上杉 年一君	
	大平 一郎君	河野 勝三君	
	河村 寛君	熊沢 淳君	
	小林 剛志君	芹田 勇君	
	高椋 正雄君	塚本富士夫君	
	林 敏君	平本 清房君	
	前原 繁君	山 外次郎君	
	山本 大作君		

10. 鉄鋼標準試料の分譲

従来に引続き鉄鋼標準試料の分譲を行つているが、需
 要増加のため品切を生じ、分譲に支障を来たしたので
 鉄鋼標準試料委員会において対策を研究、製造依頼先
 の増加、分析の促進等に努力したので、その後製造分
 析ともに着々進行し、22種の試料を整備、分譲の求め
 に応じ得ることとなり、本年度における分譲数780本
 に達した。現在八幡製鉄、富士製鉄、日本鋼管、住友
 金属工業、日立金属工業の5社は試料の製造を担当し
 また東京大学、名古屋大学、東北大学金属材料研究所
 理化学研究所および八幡製鉄、富士製鉄、日本鑑管、

住友金属工業、日本製鋼所、日本特殊鋼、日立金属工
 業各社の研究機関は試料の分析を担当し、この事業に
 多大の協力援助をしている。

11. 対外関係

1. 英文 Tetsu-to-Hagané Abstracts No.10
 (1960) を発行したほか、日本鉄鋼連盟の賛助を得
 て新たに Tetsu-to-Hagané Overseas を発行
 することとなり、本年度において Vol I, No.1
 よりNo.3 まで3冊刊行し、米、英、仏、独、瑞
 典、ポーランド、スペイン、ノルウェー、カナダ、
 インド、インドネシアその他の海外諸国の鉄鋼関
 係学協会、大学、図書館、研究所、諸会社等に送
 付し、技術の紹介、交流に資した。
2. 米、英、仏、独、インド、インドネシアその他
 の諸国の鉄鋼会社その他の諸団体と引続き会誌そ
 の他の印刷物の交換をした。
3. 会誌鉄と鋼所載論文の原文翻訳の依頼等を初め取
 引の紹介その他の照会斡旋多きを加えたが、これ
 らに対し夫々回答を發し、彼我の意志疎通、技術
 の交流に資した。

V. 八幡製鉄渡辺記念資金による事業

1. 渡辺義介賞および渡辺義介記念賞の贈呈。
2. 渡辺記念講演会の開催。
 北海道、北陸、東海、関西、中国四国、九州の各支
 部においてそれぞれ渡辺記念講演会を開催した。
3. 海外出張者への調査委託
 海外出張者に対し次の通り鉄鋼関係事項の調査を委
 託し、調査費を本資金中より支出した。
 (1) 欧米諸国における金属材料とくに鉄鋼材料の強
 度に関する総合的研究組織およびその研究問題
 東北大学教授 横堀 武夫君
 (2) 米国における各大学の金属関係学生教育
 東京大学教授 松下 幸雄君
 (3) 米国における原子力鉄鋼材料の現状およ
 び将来 科学技術庁技官 島田 仁君

VI. 石原研究資金による事業

1. 鉄鋼技術共同研究会への運営費交付
 運営費40万円を交付した。
2. 原子力研究委員会への研究費交付
 研究費 79,540 円を交付した。
3. 石原研究奨励金の交付
 鉄鋼に関する研究の振興とその実用化を図るために
 設けられた石原研究奨励金を本年度において次の通
 り交付した。
 鋼の脱酸に関する研究 金25万円
 東京大学工学部冶金学科 佐野信雄君 塩見純雄君

VII. 地方支部

北海道支部、東北支部、北陸支部、東海支部、関西支
 部、中国四国支部、九州支部の各支部においても、夫
 々講習会、見学会、研究会、講演会等を開催した。

VIII. 庶務事項

1. 昭和39年6月6日 昭和35年度事業報告、収支決算
 書、昭和36年度事業計画、支収予算書および第46回通
 常総会報告を文部大臣に提出した。
2. 昭和36年6月15日 理事の登記変更および資産総額
 に関する登記変更申請を東京法務局日本橋出張所に提
 出、登記を了した。
3. 昭和36年12月1日 理事の登記変更申請を東京法務
 局日本橋出張所に提出、登記を了した。
4. 昭和36年10月17日 臨時総会の議決を経て定款の一
 部を下記の通り変更した。

記

定款第10条中、「1口の金額5,000円」とあるを、
「1口の金額10,000円」に改める。
定款第11条中、「年会費 1,200円」とあるを、
「年会費 1,500円」に改める
定款第12条中、「年会費 800円」とあるを、
「年会費 1,000円」に改める。
定款第13条中、「年会費 2,160円」とあるを、
「年会費 2,880円」に改める。

付 則

第10条、第11条、第12条および第13条の変更定款は、
認可のあつた日から施行し、昭和37年1月1日から適
用する。
昭和36年11月1日文部大臣に定款一部変更認可を申請
昭和37年1月12日付をもつて認可された。
5. 昭和37年1月22日事務所を東京都中央区宝町2丁目
4番地に臨時移転した。
6. 昭和37年2月6日 理事の登記変更申請を東京法務
局日本橋出張所に提出、登記を了した。

会 計 報 告

一般会計収支決算

収 入		支 出	
費 目	金 額	費 目	金 額
前年度繰越	1,189,263円	会 誌	13,700,983
会 費	12,012,358	印 刷 費	10,639,796
維持会	4,132,090	編 集 送	893,797
正学生会	7,500,577	刊 行 物	2,167,390
外国会	201,811	会 文 誌	3,567,710
入 会 員 金	71,120	鉄 鋼 技 術 講 座	674,060
	106,760	鉄 鋼 技 術 便 覧	0
参加出席費	591,965	鉄 鋼 熱 経 済	0
大会参加費	591,965	鉄 鋼 熱 経 済	1,302
講習会出席費	0	合 費	1,270,029
分譲収入	2,664,756	会 議 費	254,900
会 誌 数	1,175,106	大 座 談 会	873,109
会 員 名 簿	113,050	講 演 會	48,350
鉄 鋼 標 準 試 料	1,376,600	講 究 會	0
		研 究 會	93,670
印 税 収 入	788,850	支 部 補 助 金	426,000
鋼 の 熱 処 理	182,000	人 件 費	6,107,665
鉄 鋼 製 造 法	303,615	俸 給 及 手 当	5,234,599
鉄 鋼 技 術 講 座	0	旅 費 及 生 謝	191,160
熱 経 済	303,235	厚 給 及 禮 費	181,906
		退 職 積 立 金	500,000
廣 告 収 入	7,596,600	事 務 費	2,250,299
調 査 委 託 金	50,000	借 室 料	841,660
事 務 委 託 金	378,963	筆 紙 墨 及 通 信 費	780,063
会 誌 刊 行 補 助 金	600,000	交 通 費	128,410
欧 文 誌 刊 行 贊 助 金	2,000,000	図 書 什 器 費	17,695
利 子 収 入	75,631	鉄 鋼 試 料 費	142,750
雜 収 入	83,835	振 替 貯 金 手 数 料	166,990
		会 員 団 体 報 償 費	172,731
		次 年 度 繰 越	34,173
合 計	28,032,221	合 計	28,032,221

別途資金収支決算

資 金 別	収 入		支 出	
	費 目	金 額	費 目	金 額
表彰並びに事業資金		298,240円		298,240円
	前年度繰越	189,393	表 彰 費	90,570
	本年度利子	108,847	次 年 度 繰 越	207,670
八幡製鉄八幡記念資金		944,535		944,535
	前年度繰越	167,729	表 彰 費	371,000
	本年度利子	776,806	記 念 講 演 會 費	100,000
			海 外 事 情 調 査 委 託 費	400,100
			次 年 度 繰 越	73,435
石原研究資金		1,158,487		1,158,487
	前年度繰越	385,151	鉄 鋼 技 術 研 究 奨 励 金	250,000
	本年度利子	773,336	鉄 鋼 技 術 共 同 研 究 會 費	400,000
			運 原 子 力 研 究 委 員 會 費	79,540
			次 年 度 繰 越	428,947
基本金		1,300,890		1,300,890
	前年度繰越	1,208,555	次 年 度 繰 越	1,300,890
	本年度利子	92,335		
職員退職金積立金		2,714,083		2,714,083
	前年度繰越	2,084,339	退 職 金 支 給	677,000
	本年度利子	129,744	次 年 度 繰 越	2,037,083
	本年度積立	500,000		
会館資金積立金		5,132,457		5,132,457
	前年度繰越	4,768,146	事 務 所 移 転 に よ る 出 支	1,511,150
	本年度利子	364,311	次 年 度 繰 越	3,621,307

財 産 目 録 別途資金財産明細

項 目	金 額	項 目	金 額
什 器 類	1,250,000円	表彰並びに事業資金	1,457,670円
電 話 機	150,000	三井信託銀行信託預金	500,000
電 報 機	50,000	三菱信託銀行 "	300,000
電 算 機	1,099,200	安田信託銀行 "	200,000
室 内 装 飾	210,000	住友信託銀行 "	200,000
借 入 金	240,000	第一銀行普通預金	207,670
貯 蓄 金	30,977	野田文庫圖書什器	50,000
振 替 貯 金	3,196	八幡製鉄渡辺記念資金	10,073,435
計	3,033,373	三井信託銀行信託預金	2,500,000
別途資金財産	28,919,332	三菱信託銀行 "	2,500,000
		安田信託銀行 "	2,500,000
		住友信託銀行 "	2,500,000
		勸業銀行普通預金	73,435
		石原研究資金	10,428,947
		大 和 銀 行 信 託 預 金	10,000,000
		大 和 銀 行 普 通 預 金	428,947
		基 本 金	1,300,890
		三井信託銀行信託預金	1,300,890
		職 員 退 職 金 積 立 金	2,037,083
		安田信託銀行信託預金	2,037,083
		会 館 資 金 積 立 金	3,621,307
		三 菱 信 託 銀 行 信 託 預 金	3,621,307
合 計	31,952,705		